

社会研究部門

加納隆至・大沢秀行・鈴木 晃

研究概要

- 1) ザイル共和国ザイル森林におけるビッグミーチンパンジーの社会学的研究(現地調査)

加納隆至・五百部裕¹⁾

文部省科学研究費補助金(海外学術研究)により、1988年8月より12月まで、ザイル共和国ワンバにおいて現地調査を行った。今年度の調査は、餌付けをしない自然状態のもとで集団を追跡し、群間交渉・群内オス間交渉・母子関係・移入メスの行動・遊動行動・生息地の垂直利用・突撃誇示等の資料が収集された。

- 2) アフリカ地域乾燥サバンナにおける狭鼻猿類の野外研究

大沢秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園においてバタスザルおよびミドリザルの野外研究を1984年より続けている。1988年度は両種の採食行動の比較およびバタスモンキーの雄を中心とした非交尾期の社会関係の調査を行った。

- 3) インドネシア・東カリマンタン・クタイ国立公園における野生オランウータンの社会・生態学的研究

鈴木 晃

クタイ国立公園内に生棲するオランウータン約30頭の社会関係・採食生態学的研究従事(1988年8月-1989年3月)。

- 4) 父子判定に基づくニホンザルの繁殖戦略の研究

大沢秀行・光永総子²⁾

生化学研究部門で開発した父子判定の技術を利用し、これまで不明であった雄の繁殖効率、および繁殖戦略の研究を1987年度より開始した。1988年度は前年の交尾期間中終日観察を行った。霊長類研究所のニホンザル若桜放飼群の資料より、交尾回数、交尾時間、交尾努力、繁殖成功率と交尾

個体の年齢・順位の関係を分析した。また、同じ若桜群を引続き観察し、昨年度の資料と比較している。

- 5) ニホンザル地域個体群の動態

鈴木 晃

上信越ニホンザル研究林において、ニホンザル地域個体群の個体群動態・土地利用等に関して、継続的研究を行い、同研究林の管理運営に関して協力した。

論文

- 1) Ihobe, H. (1989) : How social relationships influence a monkey's choice of feeding sites in the troop of Japanese macaques (*Macaca fuscata fuscata*) on Koshima islet. *Primates* 30 (1) : 17-25.

報告・その他

- 1) Suzuki, A. (1988) : The socio-ecological study of orang-utans and the forest conditions after the big forest fires and drought, 1983, in Kutai National Park, Indonesia. Occasional papers, Kagoshima University Research Center for the South Pacific. 14 : 117-136.
- 2) 大井 徹 (1988) : スマトラの森にブタオザルを追って。モンキー 31 (6) : 4-11.

学会発表

- 1) 大沢秀行 (1988 : バタスモンキーの配偶関係と交尾戦略。第4回日本霊長類学会大会。霊長類研究 4 : 161.
- 2) 大沢秀行 (1988), ニホンザルの雄の交尾戦略とその結果。日本動物行動学会第7回大会。
- 3) 鈴木 晃 (1988) : 熱帯林大火災以後のオランウータンの採食生態・第4回日本霊長類学会。
- 4) 五百部裕・伊谷原一 (1988) : ビグミーチンパンジーの単位集団間関係 (I) - オス間の相互交渉 -。第25回日本アフリカ学会大会、研究発表要旨 1.
- 5) 伊谷原一・五百部裕 (1988) : ビグミーチンパンジーの単位集団間関係 (II) - メス間の相互交渉 -。第25回日本アフリカ学会大会、研究発表要旨 2.

1) 大学院生

2) 研修員

- 6) 五百部裕 (1988): ビグミーチンパンジーのオス間関係—E2 グループの場合—。第4回日本霊長類学会大会。霊長類研究4: 161.
- 7) 大井 徹 (1988): インドネシア、スマトラの野生ブタオザル (*Macaca nemestrina*) の交尾システム。第4回日本霊長類学会大会。

変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル45群、総個体数約2,700頭の血液試料について、35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。また、新たにミトコンドリアDNAの多型を標識として加えた。これらデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。63年度は共同利用研究者と共同で等電点電気泳動法を用い、DBP (Vitamin D binding protein) 変異遺伝子の分布状況を明らかにした。

2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から材料を採集し、前項1) と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分かれ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。

3) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行いつつある。63年度にはネパールにおいて海外調査を行い前回調査の資料不足分を補足した。

4) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

63年度には日本学術振興会アフリカ地域研究センター派遣研究者としてナイロビに5ヶ月間滞在、その間にケニア、ジンバブエでキロヒヒ、アヌビスヒヒ、チャクマヒヒの試料を入手、これまでのものと比較作業を続行中である。

5) 中国黄山でのチベットモンキー研究

和田一雄

チベットモンキーの社会行動のまとめを行っている。

総 説

- 1) 野澤 謙 (1988): 霊長類集団の遺伝子構成。「実験用霊長類の研究開発及び国内安定供給に関する調査研究会」調査報告書、139-153. 新技術振興会渡辺記念会、東京。
- 2) 野澤 謙 (1988): 実験用霊長類の質と遺伝的統御。「実験用霊長類の研究開発及び国内安定供給に関する調査研究会」調査報告書、225-233. 新技術振興会渡辺記念会、東京。
- 3) 和田一雄 (1989): ニホンザルの餌付け論序説—志賀高原地獄谷野猿公苑を中心に—。哺乳類科学、29 (1): 1-16.

論 文

- 1) Hayasaka, K., Horai, S., Gojobori, T., Shotake, T., Nozawa, K. and Matsunaga, E. (1988): Phylogenetic relationships among Japanese, rhesus, Formosan and crab-eating monkeys, inferred from restriction-enzyme analysis of mitochondrial DNAs. Mol. Biol. Evol., 5:270-281.

報告・その他

- 1) 野澤 謙・天野 卓・並河鷹夫・M. A. Hasnath・K. G. Mostafa・M. D. Faruque. (1988): バングラディシュ在来馬の遺伝子構成。在来家畜研究会報告、12:123-134.
- 2) 野澤 謙・勝又 誠・M. A. Hasnath (1988): 黒色ベンガル山羊の毛色多型。在来家畜研究会報告、12:187-198.
- 3) 野澤 謙・並河鷹夫・坪田裕司 (1988): バングラディシュにおける猫の毛色多型。在来家畜研究会報告、12: 291-298.